

製品名: MNT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14010**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	MNT
別名	MNT; BHLHD3; ROX; Max-binding protein MNT; Class D basic helix-loop-helix protein 3; bHLHd3; Myc antagonist MNT; Protein ROX
遺伝子 ID	4335.0
SwissProt ID	Q99583
免疫原	抗血清はヒト MNT 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 315-364

背景

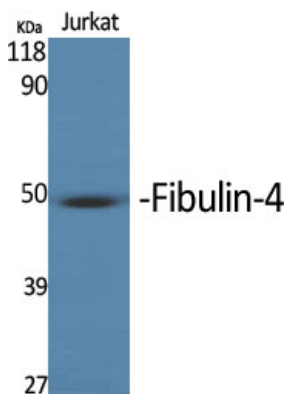
Myc/Max/Mad ネットワークは、遺伝子特異的な転写活性化または抑制を制御するために相互作用する転写因子群から構成されている

ます。この遺伝子は、Myc/Max/Mad ネットワークのタンパク質メンバーをコードしています。このタンパク質は、塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス・ジッパードメイン (bHLHzip) を有し、Max タンパク質とヘテロ二量体を形成した後、E ボックスとして知られる標準的な DNA 配列 CANNTG に結合します。このタンパク質は、転写抑制因子であり、Myc 依存性転写活性化および細胞増殖の拮抗因子であると考えられます。このタンパク質は、N 末端の Sin3 相互作用ドメインで DNA 結合タンパク質に結合して転写を抑制します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: MAX とヘテロ二量体として DNA に結合し、転写を抑制します。標準的な E ボックス配列 5'-CACGTG-3' に結合し、より高い親和性で 5'-CACGCG-3' にも結合する。類似性: 1 つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。サブユニット: 効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。MAX とホモ二量体またはヘテロ二量体として DNA に結合する。、

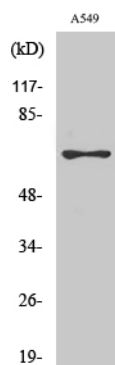
研究分野

-

画像データ



MNT ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタン プロット分析。



MNT ポリクローナル抗体を使用した A549 細胞のウエスタン プロット分析。